

# 自然観察NOW

NO : 32

野幌森林公園自然情報

発行 : 2018年 9月8日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## セイタカアワダチソウとオオアワダチソウ

8月に入るとふれあい交流館の周辺には背の高い黄色い花が咲き始めます。セイタカアワダチソウと認識している方が多いと思いますが、オオアワダチソウです。両種はとても似ています。8月下旬になるとセイタカアワダチソウも咲き始めます。よく観察してみるといろいろと違いが見えてきます。また両種は帰化植物でその生態も興味深いものがあります。

### 両種の違い



	セイタカアワダチソウ	オオアワダチソウ
花の咲く時期	8月下旬から10月 *本州では10月に入ってから咲くので花期は重ならない	7月下旬から9月
花穂		
草丈	100cm~250cm 4m近くなるものもあります	50cm~150cm
葉の毛	毛があり触るとざらざらする	無毛で触るとすべすべする
茎の毛	有毛	無毛
茎の色	淡緑色 やや粉白を帯びる	茶褐色 紫黒色 夏季うちは淡緑色
葉の質 葉裏	やや厚い 葉の裏の葉脈が盛上がっていて、裏面の模様が不明瞭	薄い 葉の裏の葉脈の盛り上がりはセイタカアワダチソウ程ではないが模様がはっきり見える
葉柄	ほとんど無柄	短い葉柄がある

イラスト 「北海道植物図譜」より

## 帰化植物

セイタカアワダチソウは明治時代鑑賞用として輸入されました。その時には日本各地に広がることはありませんでした。日本中に広がるきっかけになったのは第二次世界大戦後アメリカからの大量の物資に混じって種子や植物体が各地に陸揚げされたことだと言われています。

戦災でできた空き地や炭鉱跡、休耕田、河川敷などで大きな群落ができ、沖縄から北海道まで生育しています。

オオアワダチソウはセイタカアワダチソウのような大群落にはなりません、北海道ではオオアワダチウが優占しています。

## 虫媒花

一時期花粉症の原因と言われましたが、濡れ衣であることが立証されました。

セイタカアワダチソウにやって来る昆虫は調べたところ 20 種以上が確認されていますが、そのなかでもミツバチが圧倒的に多く訪れていることが観察されています。このミツバチを観察していたら、よその花序から花粉を運んできたミツバチは花序の下のほうにおりて歩きながら蜜を吸い、上のほうに行きます。セイタカアワダチソウは雌花が先に、雄花が後に開き上のほうから咲き下がっていくので自家受粉が起きにくくなっています。

\*花の時期にはノビタキ、綿毛の種子にはベニマシコなどの野鳥が来ている写真もあります。

## アレロパシー

地下茎から分泌される物質が他の植物の成長を抑制することを他感作用（アレロパシー）と言います。

セイタカアワダチソウの地下茎の水抽出液を様々な植物に与えて育ててみた試験結果、発芽が抑えられるものとそれほど影響のない植物があり、最も影響が大きかったのはセイタカアワダチソウ自身でした。そのせいか群落内では種子の発芽は見みられませんでした、群落の外では多くの発芽が見られました。

## 繁殖への投資

セイタカアワダチソウは地下茎による栄養繁殖と花を咲かせて種子をつくる種子繁殖があります。いろいろな場所で調べてみたところ、ある場所のものはより多くの地下茎作り、別の場所ではより多くの種子を作っていることに気づき試験調査してみたところ、何年も前から群落が作られていた場所では地下茎よりもより多くの種子を作り、新たに進出して間もない場所では早くその場所に群落を作ろうと地下茎を盛んに伸ばして栄養繁殖するという結果もあり、なかなかしたたかで手ごわい植物です。

## 花言葉

セイタカアワダチソウの花言葉は「生命力」、「元気」「唯我独尊」などがあります。

漢字で書くと背高泡立草。その由来については、セイタカは際立って丈が高く、アワダチは豊かに盛り上がる花の姿を、酒を醸造するときに見える泡に見立てたとか、実になったときの綿毛がふわふわした様子を泡に見立てたなどがあります。皆様もいろいろ想像してみてください。

### 今後の観察会の予定

10月11日(木)	秋の花の匂いをかごう	10:00~14:30	開拓の村集合・解散
10月21日(日)	晩秋の森観察会志文別コース	10:00~14:30	自然ふれあい交流館集合・解散
11月4日(日)	秋のありがとう観察会	10:00~12:30	ふれあい交流館集合・解散
11月23日(金)	西岡水源地自然観察会	10:00~12:30	西岡水源地管理事務所前集合・解散

参考図書「雑草の自然史」「帰化植物の自然史」

文責 菅美紀子